

1-② 文化芸術教育と郷土に誇りをもてる学びを推進する

取組 5	古代東国文化をはじめとした文化遺産を活用した学びの推進
------	-----------------------------

【担当所属：義務教育課 高校教育課 文化財保護課 世界遺産推進課 文化振興課】

1 現状

群馬県は古代東国における文化の中心として栄えた歴史をもち、歴史的価値のある文化遺産が豊富にあり、児童生徒が文化遺産に触れる場が数多くあることから、本県の歴史や文化の学びを進め、郷土への誇りを醸成しています。

(1) 小・中学校における歴史学習

我が国や地域社会に対する誇りと愛情を育てることをねらいとして、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事等の地域の歴史から、我が国の歴史の大きな流れまで、人物の働きや文化遺産を取り上げながら、発達段階に応じて学習しています。その際、児童生徒により関心を持たせるために、自分たちの住む県や市町村が指定する重要文化財等を扱っています。

<東国文化副読本の制作>

東日本最大の古墳大国であったという群馬のルーツを子どもたちに知ってもらうため、古墳や埴輪等の出土品、住居跡等、群馬で生きた人々の暮らしの一端を見せながら、わかりやすく解説した「東国文化副読本」を作成し県内の中学1年生全員、県内図書館及び公民館等へ配布しました。



「東国文化副読本 ～古代ぐんまを探検しよう～」

(2) 高等学校での取組

日本史の授業において、県内に多数点在する歴史文化遺産や明治時代の殖産興業政策として建てられた富岡製糸場について学習し、これら地域の生きた教材を一層活用して遺産への理解を深め、群馬の歴史と文化を広く情報発信できる人材の育成に努めています。

(3) 「富岡製糸場と絹産業遺産群」に関する取組

平成26年度の世界遺産登録を目指している「富岡製糸場と絹産業遺産群」（富岡製糸場・田島弥平旧宅・高山社跡・荒船風穴）について、ボランティアが学校に出向き、児童生徒に同遺産群を中心として県内の絹産業に関する歴史と文化を楽しく学ばせる学校キャラバンを実施しています。また、現地の郷土文化学習の場としての活用も始めています。

(4) 重要文化財等に関する取組

上野国分寺跡や観音山古墳をはじめとする県内各地の文化財の価値を明らかにし、指定等により保存、整備、活用を進めています。（国、県指定等文化財 871件(平成24年度末)）

平成24年度には上信自動車道建設工事に伴う発掘調査で6世紀初頭の榛名山噴火災害の被災者と考えられる甲着装人骨が発見されました。また、上野国分寺跡では平成24年度から再開された発掘調査で中門、回廊等の新たな発見がありました。

文化財は生涯にわたる様々な学習や地域振興及び観光振興まで幅広い活用が期待できることから、文化財関連事業は、地域を元気にする行政施策として益々重要度が増しています。



史跡観音山古墳 小学生の社会科見学の様子

2 課題

- (1) 県内の歴史的価値ある文化遺産に関する学びを推進し、郷土に誇りを持たせること
- (2) 文化財に関する知識の普及や広報活動等において本県の古代東国文化を積極的に発信していくこと
- (3) 文化財の活用につながるよう、文化財の保護、文化財指定、調査研究等を計画的に進めること

### 3 取組の方向

- (1) 県内の文化遺産についての学び
  - ① 古代東国文化や「富岡製糸場と絹産業遺産群」について学ぶことで、故郷への誇りと愛着を育みます。
  - ② 歴史的価値のある文化遺産を体感する機会を増やす学習を推進します。
  - ③ 県内の文化財や歴史的遺産を授業で一層活用します。
- (2) 文化財の活用
  - ① 文化財を教材として活用するための情報提供を行います。
  - ② 広く県民が文化財に親しみ、理解を深めることができるよう広報啓発に努めます。
- (3) 文化財の保護保存と整備
 

市町村等と連絡を密にし、文化財の歴史的価値を明確にして文化財の国、県指定等に努めます。



史跡上野国分寺跡現地説明会の様子

### 4 主な取組内容

- (1) 古墳・遺跡等の身近な文化財や「富岡製糸場と絹産業遺産群」に触れる体験活動を、学校教育の中に導入します。
- (2) 中学校歴史分野の授業において、身近な地域の文化財や歴史的遺産を取り上げる機会をより一層増やしていくために、「東国文化副読本」の活用に努めます。
- (3) 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の社会科見学用副読本を作成・配布するなど、学校教育への活用を促し、郷土への誇りを育みます。
- (4) 長期休業を利用した群馬県立歴史博物館や群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館における企画展の見学、体験学習等への積極的な参加を促します。
- (5) 史跡上野国分寺跡の整備事業を進め、発掘調査成果等を広く情報発信するとともに、史跡観音山古墳を含め、学校教育、生涯学習での一層の活用促進を図ります。
- (6) 日本古代史の授業において、古代東国文化の学習が円滑に行われるよう教員研修を推進します。
- (7) 埋蔵文化財調査センターにおける教員や市町村文化財担当者向けの専門講座の内容を充実していきます。
- (8) 文化財の国、県指定等の取組
  - ① 県文化財保護審議会による県内文化財の調査検討を計画的に進めるとともに、文化財の保存整備を支援します。
  - ② 古墳総合調査や金井東裏遺跡出土の甲着裝人骨等の詳細調査等、文化財の新たな価値の発見や磨き上げに努めます。

### 5 達成目標

目標の概要	基準年度の状況(H25)	目標年度の状況(H30)
(1) 中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合	43.0%	100%
(2) 県埋蔵文化財調査センター発掘情報館の展示解説や体験学習プログラムを教育活動に利用した団体数	36団体(H24)	50団体

### 6 他の施策分野における関連した取組

- (1) 「富岡製糸場と絹産業遺産群」4資産の保存活用を支援しています。 (世界遺産推進課)
- (2) 群馬県が東日本最大の古墳大国であり、古代東国文化の中心地であったことを県内外へ再認識してもらうため「古代東国文化サミット」を開催しています。
- (3) 「上野三碑」(多胡碑、山上碑、金井沢碑)の県内外での知名度向上を図るため、シンポジウムや講演会等を開催し、啓発を図っています。 (以上、文化振興課)